

TOPICS

大学病院の被災地医療活動

片山 茂裕(大学病院 病院長)

2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0、最大震度7の東日本大震災が発生しました。当院は災害拠点病院ではなく、DMATはありません。ただ、それにしても被災地を支援すべく、呼吸器内科の萩原弘一教授・鈴木朋子講師が自発的に3月18日から23日まで気仙沼市立病院（二人とも以前にあるいは今も勤務経験があり）の診療支援に出かけました。また産婦人科の難波聡講師がJOCの要請で3月28日から31日まで宮城県内で支援活動を行いました。その後、気仙沼市立病院 遠藤病院長から埼玉医科大学 丸木理事長あての正式な支援要請があり、3病院から交替で支援チームを気仙沼地区へ派遣することになりました。

大学病院からは第一陣として4月4日から11日まで皆川晃伸講師率いる総勢8名が、第二陣として4月25日から5月1日まで野口雄一講師率いる総勢9名が派遣されました。本報告では、上記3名の医師に活動報告をお願いいたしました。

なお、これ以外にも産婦人科から西医学講師（6月7～10日）・佐藤加寿子助教（6月21～24日）が気仙沼市立病院産婦人科へ派遣されました。また福島原発関連で、中央放射線部 和田幸人（6月6～8日）・石井通之（6月27～29日）放射線技師と、中央研究施設RI部門 飯塚裕幸放射線管理者（6月17～19日）が福島県へ派遣されたことを付記いたします。